

第5章 サイン計画の具体化

5-1 デザイン方針

設置するサイン施設については、高齢者や障害者等に配慮した表示面の高さや向きを確保できる形状とします。

案内サインと誘導サインは、道路（歩道）上に設置される施設のため、サインとして必要な機能を果たすとともに、町並みになじむデザインや色について、配慮する必要があります。そのため、伊賀市の地域特性等を踏まえ、サインのデザインに関する基本方針を以下のとおり設定します。

■施設のデザイン方針

景観への配慮

すでに形成された伊賀市独自の景観を阻害しない色や形状としつつ、地域の特色を入れ込みます。

不要な装飾の排除

見やすく分かりやすい、シンプルな形状や表示面とします。

顕在性の確保

サインとして必要な「見つけやすさ」を確保します。

デザインの統一性

連続感を持った案内となるよう、デザインの統一性を確保します。

【景観への配慮】

伊賀市の公共サインは町並み景観を構成する一要因ではありますが、サイン自体が「伊賀らしさ」を表現したり、特徴的な景観要素となるものではありません。「伊賀らしさ」を表す優れた景観は、既に伊賀市内の各地で形成されています。サイン施設のデザインは、目立ちすぎてデザイン的に主張することのないようにします。ただし、地域特性を表現できるスペースをサインの一部に準備し、さりげなく演出することも可能なデザインとします。

【華やかな装飾の排除】

案内・誘導が必要な人は、その「情報」が必要であって、サインをオブジェやモニュメントとして必要としてわけではありません。公共サインはあくまでまちの「引き立て役」であることに留意します。

【顕在性の確保】

眺望がきく場合や、周辺に看板や標識等が見られない場合は、サイン施設を見つけられる最小限の高さ・形状でもかまいませんが、市街地内で様々な看板等が乱立するなど視界が阻まれている場合には、ある程度の距離から見つけられるような高さ・形状等の工夫が必要です。

【デザインの統一性】

原則として市街地では、「公共サインにより連続した案内が行われている」と利用者が感じられるよう、ガイドライン内で示すデザイン案に基づき整備を進めます。なお、特定の地区で景観への配慮の視点からデザインおよび素材の変更を行う場合においても、地区内でのデザインの統一性を図ることとします。

5-2 施設デザイン

(1) 公共サインデザインのルール

本ガイドラインにもとづき設置される公共サインについては、案内の連続性を確保するとともに、サイン施設の視認性を高めるため、サイン施設のカラーを本ガイドラインで設定し、伊賀市内における統一性のある誘導案内システムの実現を図ります。

伊賀市の誇る歴史的・文化的景観や、山林や水辺の貴重な自然景観を阻害することなく、多様な景観になじむ落ち着いた和風の色をサイン施設の「ベースカラー(基調色)」とします。あわせて、市街地においては多彩な建築物・工作物のなかでサインとしての顕在性を確保できるよう配慮することとします。

①主要拠点（行動起点・主要な案内拠点）サインのデザイン

駅など行動起点や不特定多数の来訪者にとって詳しい誘導案内が必要と思われる地点を「主要拠点」と位置づけ、周辺案内地図以外に様々な誘導案内情報を表示した、総合的な案内サイン施設を整備します。主要拠点サインは原則として独立板型の施設としますが、地区状況等により設置が困難な場合は、壁掛け型等の案内サインを用います。

また、景観に配慮してサイン高さを抑えたい地点等においては、地図表示面の一部を斜め上方に傾ける形状のサインを設置することとなりますが、その場合は、利用者が無理な姿勢をせず全面が確認できるよう配慮します。また、車いす使用者が地図面に接近して利用しやすいよう、地図面下方のゆとりやすき間を取るなどの配慮が必要です。

なお、主要拠点サインについては、遠方からの視認性を確保するため施設上部にインフォメーションマークを表示します。表示高さは、インフォメーションマーク表示下端 2.5m以上を確保するよう配慮します。

②誘導拠点サインのデザイン

誘導ルート上において、来訪者が不安を感じない間隔で誘導施設への方向と距離を確認できるサインを設置します。

サインの顕在性と連続性を高めるため、同一経路上にある誘導サインの表示面は統一した表示内容とするとともに、統一性・連続性を感じられるデザインとなるよう配慮します。

矢羽根型の誘導サインを配置する場合は、表示パネルを誘導方向に向け、パネル下端は地上 250 cm以上となるよう設置します。

なお、サイン施設を建物等の壁面を背に配置し、表示面を歩行者の動線と並行に設置する場合（表示パネルが道路側に張り出さない場合）等に限り、表示パネル下端を 250 cm以下の位置で表示できることとします。設置にあたっては、歩行者の安全確保のため、サイン施設が歩行者の移動を妨げない位置になることを十分確認します。

(2) 伊賀市公共サイン共通デザイン案

地域特性を表現できるスペース（地域特性表現スペース）をサインの一部に準備し、観光資源や特産品等で地域特性を表現することも可能なデザインとします。

以下に本市の地域特性として考えられる表現の一例を挙げます。

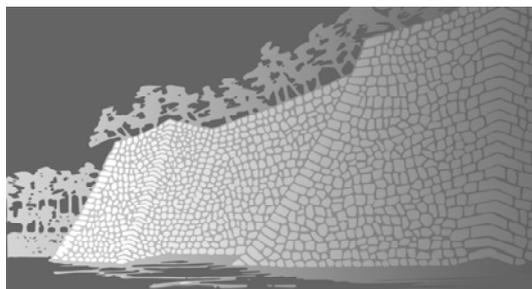
忍者



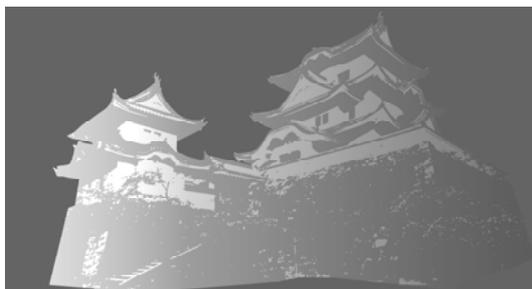
芭蕉さんと俳聖殿



高石垣



伊賀上野城



◆伊賀市公共サイン共通デザイン案

A
総合案内サイン
UC-711002

広域地図
近隣の避難場所表示
公共施設
観光案内 など

周辺地図
広域避難場所表示
観光案内 など

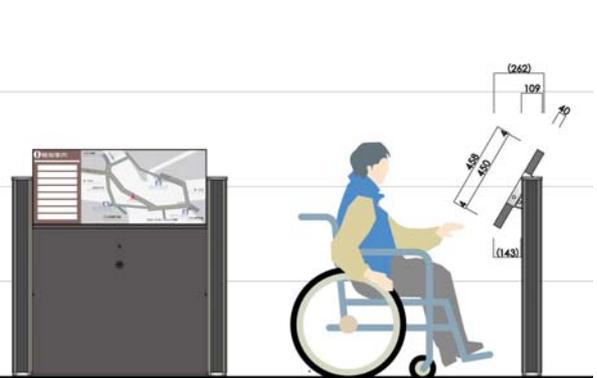
B
触知サイン

- ・人感センサーによりチャイムが鳴ることでサインの所在を知らせる
- ・触知表示により、交通広場広場各施設を知らせる
- ・触知表示はカラー印刷併記により、視覚者も同様に利用できる



地域特性
表現スペース

▼ GL



UC-711002
表示基板: t1.5アルミ板 合成樹脂塗装 (ダークグレー)
裏パネル: t1.5アルミ板 合成樹脂塗装 (ダークグレー)
フレーム: アルミ押出形材 アルマイト (シルバー) クリア塗装
支柱: アルミ押出形材 アルマイト (シルバー) クリア塗装
印刷: CAPPタフジェット

UC-303500HB
Sパネル: 表示基板: t1.5ステンレス鋼板+ホーロー釉薬、周囲エッジ: エラストマー樹脂 (ダークグレー)
支柱: アルミ押出形材 着色アルマイト (ステンカラー) クリア塗装
樹脂アダプター: エラストマー樹脂 (ダークグレー)
上蓋: 合成ゴム成形品 (ブラック)
音声装置: 装置: 防滴スピーカー+集電センサー 音量調整ダイヤル付
パネル: t2.0アルミ板 合成樹脂焼付塗装 (ダークグレー)
フレーム: アルミ押出形材 着色アルマイト (シルバー) クリア塗装
表示方法: CAPPセラメタル【触知付き】

C
バスのりばサイン
両面表示

※アケパネは前面フレーム4方向開閉式で時刻表類の取替えが簡単です。
(完全防水ではありませんので、念のために時刻表に関しては耐水性のあるものをご使用ください)

表

裏

D
タクシーのりばサイン
両面表示

D
一般車乗降場サイン
両面表示

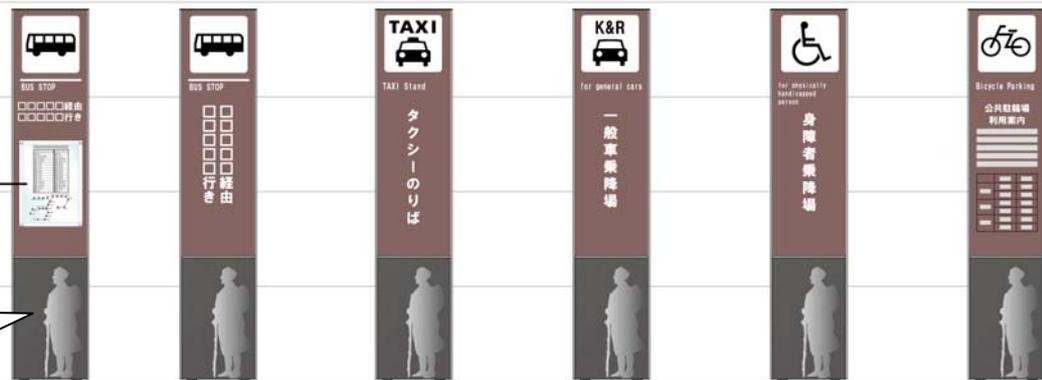
D
身障者乗降場サイン
両面表示

D
駐輪場サイン
片面表示

アケパネ
A3サイズ
(時刻表別)

地域特性
表現スペース

▼ GL



UC-711302変(屋外用アケパネ付)
表示基板: t1.5アルミ板 合成樹脂塗装 (ダークグレー)
裏パネル: t1.5アルミ板 合成樹脂塗装 (ダークグレー)
フレーム: アルミ押出形材 アルマイト (シルバー) クリア塗装
支柱: アルミ押出形材 アルマイト (シルバー) クリア塗装
印刷: CAPPタフジェット

UC-711302
表示基板: t1.5アルミ板 合成樹脂塗装 (ダークグレー)
裏パネル: t1.5アルミ板 合成樹脂塗装 (ダークグレー)
フレーム: アルミ押出形材 アルマイト (シルバー) クリア塗装
支柱: アルミ押出形材 アルマイト (シルバー) クリア塗装
印刷: CAPPタフジェット

- ◆色彩ガイドラインに準拠したマンセル値 5R/4/2 を本体の色彩とし、どの風景区域、風景軸にも馴染むアースカラー系の主張しすぎない落ち着いた配色です。
- ◆共通デザインとして芭蕉さんを表現していますが、地域のイメージに合ったデザインとすることも考えられます。
(例：忍者、伊賀上野城、だんじり等)。

